

平和を願ってキッズゲルニカ

— アメリカ・ハワイにて —

松尾 英夫

◎長崎親善人形の会(瓊子の会)

1927年(昭和二)日本とアメリカの関係がおかしくなつてゆく中で、当時宣教師で同志社大学の先生だったギューリック一世は、子供たちの純真な心を通じ日本とアメリカの関係を、すばらしいものにしたいたいと思いアメリカから「青い目の人形」を日本の子供たちに送ろうと考え、アメリカの国中に人形を送ることを訴えました。

その結果、約12,600体の人形が集まり、日本の「雛祭り」の日に届くように船に乗せて送つてきました。

その中の214体を長崎県が受取り学校や幼稚園に配られました。しかし、現在は平戸の幼稚園のエレン・Cと島原第一小学校のリトル・メリーの2体のみ残っているだけです。

日本では実業家の渋沢栄一氏を中心に受け取りました。そのお返しとして「日本人形」(市松人形)を送ることになり、58体で作られ、県や市などの代表として名前が付けられました。

長崎県の代表として、



キッズゲルニカワークショップ(ハワイ・カイルア於て)

ミス長崎 長崎瓊子と名前が付けられ、アメリカへ12月のクリスマスプレゼントとして届けられました。第二次世界大戦の時、青い目の人形は燃やされたり壊されたりして、ほとんどが無くなりました。今日までに全国で約330体が発見されています。一方日本から送った市松人形は44体が発見され、博物館などに保存されています。

2003年に「長崎瓊子の里帰り展」を開催し、大成功に終わりました。その目的を受けつぎ、今後も活動してゆこうと、「長崎親善人形の会」は発足しました。

◎キッズゲルニカ国際プロジェクト

1937年ドイツ軍コンドル兵団がスペインの小さな村ゲルニカ(人口約1万人)まで飛んで来て攻撃し、村を破壊し、死者654人・負傷者889人の犠牲者を出しました。この攻撃を知った、スペインの画家パブロ・ピカソが抗議を表す作品を1ヶ月で完成させ、パリの万国博で展示されました。作品名は「ゲルニカ」となっています。

キッズゲルニカ国際プロジェクトはゲルニカの作品の大きさと同じキャンバスに平和のメッセージを描くことだけのルールを決め、世界中で活動することを決めました。

「長崎親善人形の会」は活動の一つとして、子供たちに平和のメッセージを絵にする、キッズゲルニカに参加することを決め、2007年より活動を始め、今日まで県内をはじめ、カンボジア、アメリカなどで実行し、38点の作品を完成しました。

今回はアメリカ、ハワイ、カイルアのSt Anthony Schoolワークショップをすることになりました。全校生徒約300人の学校でしたがほとんどの生徒が参加してくれました。

2015年2月19日学校に着くと講堂にキャンバスが広げられ下絵が描かれていました。中心にALOHAという文字がありそのまわりに花・山・ビーチが描かれ、平和のメッセージが表現されていました。色をつけはじめると、子供たちはワクワクしながら、楽しそうに、描く手をつまでも止めようとしませんでした。先生からは次のようなメッセージをいただきました。

「私たちは、このすばらしいプロジェクトに、あなた方と協力して参加することができたことにとても興奮しています。私たちの学生は平和を促進するためにアートを使用するのは、素晴らしい方法だと思っています。ありがとうございます。」

校長先生は生徒達がとり組む姿をみて涙を流し喜んで下さいました。

◎ハワイ(ホノルル)

私は初めてのハワイです。H・I・Sのレフレアトロリーを利用してホノルルの街を楽しみました。ワイキキビーチではフラダンスショーが開かれていました。多くの出演者と見物人がいたのですが、驚いたのは出演者のほとんどが日本人だった事です。聞くところによると、今はこのようなイベント付きのツアーがあるそうです。

ハワイは緑の多いすばらしい風景の街で、観光客でいっぱいです。又、上半身ハダカでジョギングをしたり歩いたりしている人、水着姿で街の中を歩いている人などにも出会いました。しかし、その反面路上生活者が沢山いて、目前のゴミ箱をあさって食物や色々なものをもって帰るのを何人も見ました。

私が思い描いていたハワイとは違ったところがあるのだと思われませんでした。でも、はじめてのハワイは観光も含め楽しい思い出となりました。

(長崎親善人形の会)

風信

○三月になりました。本会主催の各講座を左記の通り開催いたしますので御自由に御参加下さい。(会費不要、資料代は各自)

- 一、長崎字を学ぶ講座 毎週月曜日午前十時半より(講師は毎回不同、資料代二〇〇円)
- 一、水曜懇話会 毎週水曜日午後一時半より三時、(江口淳二、吉田幸男、

- 野口嘉弘、陸門良輔、末永節子、田川康子、村本京の各氏を中心にして)
- 一、古文書を読む会 毎月第一・第三火曜日。午前十時半より正午(指導・川原清、米田輝臣、久保美洋子、力丸明美、後見・越中哲也)
- 一、食の文化を考えるサークル。毎月第二・第四金曜日午後二時より(脇山壽子女史、太田靖彦氏、大東良平氏を中心に)
- 長崎の古記にみる三月行事
- 三月三日、上巳の節句、家々小豆餅、鯨みそあえ、田螺、蓬餅、桃酒(甘酒)を用意、内裏雛を飾る。
- 四日は裏節句として汐子狩に遊ぶ。
- 十日は金比羅。十五日は笠頭、二十五日は合戦場にて「ハタ揚げ」に行く。
- 長崎ぶらぶら節に
- 紺屋町の橋の上で子供のハタ喧嘩 世話町が五・六町ばかりも
- 二、三日ブウラブラ ブラリ ブラリと いうたもんだい チュー
- 三月十七日、彼岸入り 二十日は彼岸の中日、ひがん団子あり。
- 三月二十一日 弘法大師の縁日・信心ふかき老若「ふだうち」と称し町々の大師堂を巡拝、遠くは穴弘法に行く。

○三月二日午後二時半より「長崎日本ポルトガル協会創立五〇周年」となるのでサンプリエールを会場に、長崎純心大学片岡留美子学長を迎え記念講演会開催。演題は「イエズス会士日本司教ルイス・セルケイラの生涯」長崎初期のキリシタン史の論考、盛会でした。(長崎日ポ協会事務局は在長崎ポルトガル名誉領事館と共に十八銀行本店内にある)

○今月ご寄贈いただいた書籍

一、本馬貞夫氏より延命寺開創四百年記念誌『いのち紡ぎて』長崎初期の眞言宗寺院延命寺の歴史を中心に延命寺各委員の信仰説話も多く集録されている。

一、長崎歴史文化博物館より『よみがえれ!シーポルトの博物館』の展示資料図録。ドイツ・ミュンヘン博物館所蔵の新資料を主にした資料で大いに参考になった。(展覧会は四月二日まで)

一、学研プラスより『鳥瞰イラストでよみがえる歴史の舞台』
古代より現代までの代表的な歴史の舞台となつた史跡を取りあげた鳥瞰図の中に「出島」がありました。
(学研社発行・一八〇〇円+税)

長崎歴史文化協会 研究室

TEL 八二二一五四〇
十八銀行公会堂前出張所二F

